

21世紀ニューモデル

SCOOP▶▶▶

12月連発



042



アリスト

改良

北米向けレクサスGS300の年式変更にもなっており国内向けにも一部改良が施されるが、大きな変更点はなく、外観上の差異はないだろう。一部ボディカラーの色调が変わり、装備アイテムの見直しが行われる程度にとどまるようだ。また、先ごろ発表されたモデルに続き、モデルスタからふたたびチューンナップ仕様が発表される可能性もある。

043



ディオン

改良

発売から丸1年を迎える2月にも一部改良が実施されるとの見方が強かったが、途中4WD車と新グレードが加わったりリコール騒動で型式認定に遅れが生じたことを受け、夏以降にズレ込む可能性が高まった。改良では廉価グレードの装備設定が見直され、一部ボディカラーが新色に差し替えられるだろう。



Illust. K,Honma

044

ライバル車を凌駕する
2 i-VTECの走りに注目!

CR-V

CR-Vの予想フォルム。新型モデルでもアーバン調のテイストと、クロカンならではの力強さがうまく調和されるだろう。エンジンルームにはK20A型2 i-VTECが収まる。

I

スクードとRAV4が熱いバトルを繰り広げている中、3ナンバーボディを引っ提げて登場したCR-Vは大成を収め、その後ライト級クロカンのベンチマークにもなった。それを示すかのように、00年5月に登場したRAV4は3ナンバーサイズに生まれ変わって登場。最近デビューしたエクストレイルやトリビュートも全幅1700を超える3ナンバーボディの持ち主だ。

そんなCR-Vもホンダの元氣印ともいえるクリエイティブ・ムービーの一員。当然のごとく、オデッセイ、ステップワゴンのFMCを追って2世代目にバトンタッチを果たす。「WP」↓「WN」↓「KL」と変遷してきた社内コードとは裏腹に開発は順調に進んでいる。ボディサイズはやや大きくなり、居住性が向上。また、使い勝手のよい装備アイテムが数多く盛り込まれ、激戦区になった市場でライバル車に打ち勝つだけの商品力を身につけて登場する。

なかでも見逃せないのがパワーユニットの刷新だ。現行モデルの2エンジンもコンパクトな構造で注目を浴びたが、FMCを機に起用されるのはストリームで世に出たK20A型2 i-VTECだ。低燃費と環境性能そして高出力がバランスよく融合したエンジンなので、ライバル車購入を検討しているキミも、コイツを待ったほうが賢明かも。



045

遊びゴコロがつまったbB派生のワルなピックアップ

オープンデッキ

オープンデッキはモーターショー出品車とはほぼ同じ姿で登場する。観音開きドアもそのまま踏襲されるようだ。

東

京モーターショーに参考出品されたbBのコンセプト版オープンデッキがそのまま市販されることになった。開発コード「533N」を与えられ、すでに市販化に向けた作業が進められている。

また、左側面には観音開きドアが採用され、レジャーシーンで高い実用性を発揮しそうだ。さらに、この開口部の広さを生かした身障者向け特装モデル「ウェルキャブ」も設定され、ヒューマンフレンドリーな一面も見せる。

目に見えないメカ部分はbBと共有され、1.5 エンジンがメインユニットとして起用される。なお、価格はbBよりも約10万円高い160〜170万円に設定されそうだ。

046

Z MC



CG.Jr

車高を落とし、エアロパーツで武装するZ。低価格化と併せて若者受けするかな？

ユ

ニクなコンセプトを掲げ、ニッチ商品として登場したZ。だが、実際には予想以上の苦戦を強いられてしまっている。いもはや忘れ去られた感すらある。「この先、どうやって減価償却していくのか」。開発陣が導き出した回答は、若者受けするワル乗りモデルの設定だった。

4WDでありながらローダウンサスを装備して車高を落とし、エアロバンパーやサイドシルガーニッシュで武装。同時に2WDモデルも加わり、価格帯の拡大が図られる。

047

ライフ MC



CG.Jr

大変身を目指すライフを大胆予想してみた。ノーズ部分はすべて刷新される。

ワ

その変身規模は変わる部位を挙げただけでも十分に伝わるはず。ヘッドランプやリアコンビネーションランプにとどまらず、前後バンパーやボンネットフッド、フロントフェンダー、ハッチゲートも新造型のものに変えられ、

ゴンドラやムーヴに比べ、いまひとつ存在感に欠けるライフが大幅に刷新される。本誌発売後の12月21日には待望のターボモデルが追加されるが、01年8月にはNAモデルのMCが実施される予定だ。

054



ハイラックスサーフ改良

恒例の一部改良がお盆休みの前後に敢行されるだろう。00年はコモンレール式直噴ディーゼルエンジンが新搭載されるなど、規模の大きな変更が行われたため、01年はボディカラーの見直し程度にとどまる。また、改良の前、決算期には人気の特別仕様車「SSR-Xリミテッド」が再販されるだろう。

055



ランドクルーザー&プラド改良

ハイラックスサーフと同時に一部変更が施される。ただし、そろそろ本格的なMCに期待したい100系とシグナスは別スケジュールで動く可能性もある。一方のプラドは新ディーゼルエンジンが搭載されてから1年が経過するため、小変更が実施されるだろう。いずれ特別仕様車「TXリミテッド」も登場する見込み。

056



バモス MC

12月にアクティトラックがMCを受けた約半年後、バモスとアクティブバンも同様にMC。バモスは前後バンパーやインパネが新デザインに変更され、13インチホイールも新採用される。また、「低排出ガス車」にも認定される見込みだ。アクティブバンには新グレードが追加され、内装トリムも拡充。

057



ディアマンテ改良

毎年8月に改良が施され、商品力が保たれている。01年も年式変更が行われ、一部ボディカラーとバリエーション展開が見直される模様。ただし、型式認定の遅れが尾を引いて影響を残し、通例のタイミングでは発売できない可能性もある。搭載エンジンがGDI-Vに切り替わるとの未確認情報も。

058



パジェロ改良

ディーゼルエンジンが一部変更され、ヒーターコントロールパネルの色調が変わるなど、小規模な変更が施される模様。また、ASC（アクティブ・スタビリティ・コントロールシステム）が新装備されるとのウワサもある。ただ、型式認定の遅れから国内向けは見送られ、輸出仕様のみ適用されるかも。

21世紀ニユー
モデル
SCOOP▶▶▶
12月連発



スクープ班が捕らえた新型カムのテストカー。サイドビューを眺めると、ウエストラインの高さが読み取れる。おおらかにラウンドしたルーフラインや大きなヘッドランプも見落とさないでね。

日

本国内ではいまひとつパッとしてないが、北米で高い人気を獲得している。国内ではむしろこれをベースに派生したハリアーのほうが好評を博しているくらいだ。そんなカムリも01年夏には世代交代を果たし、最近のトヨタ車の例に漏れず、新世代パッケージングを手に入れる。スクープしたテストカーをご覧いただきたい。擬装でゴマかされているため、わかりづらいかもしれない。

048

新世代パッケージングにより
ビッグキャビンがもっと魅力的
に

カムリ

が、マークやカラー同様、ウエストラインが高められており、高くなっている全高が打ち消されている。全高が高くなっているのにもない、当然キャビンスペースも拡大しているはずだ。ただし、リアビューを見る限り、リアウインドウが大きくスラントしているように見えるため、後席乗員のヘッドクリアランスが大丈夫なのか、ちょっと心配になってしまふね。

ボンネットフードに回り込む大きなヘッドランプやワイド感を強調するフロントグリルなど、マスクにも最新のトヨタのデザイントレンドが見え隠れしている。なお、セダンの開発は進んでいるものの、ワゴンは存在しないとの情報も寄せられており、「グラシア」は一代限りで消滅してしまうとの見方が強い。

049



ウィンダム

カムリがFMCを果たした後、基本コンポーネンツを共有するウィンダムも一新されるはずだ。引き続きラグジュアリー4ドアのコンセプトを踏襲するが、ボディ形状は側突対応のため、セダンに改められる可能性が高い。搭載エンジンは現行モデルと同じく、3 V6と2.5 V6の2種類になる模様。

050



プラッツ改良

12月に改良を受けた後（38ページ参照）、01年8月にはふたたび小改良が実施されるかも。販売状況がメーカーの予想を下回っているため、特別装備が盛り込まれたお買い得モデルもリリースされるだろう。なお、02年8月には大幅なMCが行われ、フロントマスクがガラリと変わる予定だ。現在、MCに向けて準備中。

051



ファンカーゴ改良

好調さを維持すべく、細かな商品改良が実施される。ボディカラーが差し替えられ、新グレードも追加される可能性あり。また、YRVのOEM供給が見送られた代わりか、ダイハツ製1.3 ターボエンジン（140ps/18.0kg-m）がラインナップに加わるとの最新情報も。ただし、02年8月のMC時にズレ込むかも。

052



カローラ改良

発売後に寄せられたユーザーの声を参考に、改良が行われる。ただし、変更内容は一部ボディカラーの刷新やグレード別装備の見直しなど、小規模にとどまるだろう。また、ボーナスシーズンや決算期にはセダン、フィールダーともに低価格グレードをベースにした特別仕様車が発表されることも考えられる。

053



セルシオ改良

発売時期は流動的だが、非公式の小変更が行われる可能性あり。歴代セルシオ同様、発売1年後には初期ユーザーへのヒアリング調査で得られた指摘やクレームの対応策が織り込まれる。同時に不人気カラーが新色に変更されるだろう。本格的なMCは03年初秋に実施される見込みだが、詳細は未定だ。